

**女性医師のキャリア維持と向上、就労継続、
ワーク・ライフ・バランス実現のための提言**

平成24年 7月13日

全国医学部長病院長会議

全国医学部長病院長会議
会 長 別所 正美
副会長 岡村 吉隆
女性医師の労働・環境問題検討委員会
委員長 津田 喬子

1. キャリア維持と向上

就労継続意志を持ち続ける女性医師を育てるためには、その基盤となるキャリア教育が男女を問わず必要である。現状では医学生へのキャリア教育システムの整備は進んでいない。キャリア教育を医学部カリキュラムに組み込むことを要望する。

実際的には、次世代育成にはロールモデルや女性医師教員の存在が欠かせないことから、現状の中でそれに相当し対応できる人材の登用を要望する。

さらに、医療行為のみならず、多大な業務が課せられている現状では、キャリア向上に必要な研究や勉強時間が圧迫されている。適正な労働時間確保のための法律遵守の徹底が望まれる。

2. 就労継続

大学病院を始め地域基幹病院の勤務医師就労環境の改善策として、出産・育児期の医師に対しては、病児・病後児保育のさらなる整備と普及のための公的資金援助、利用しやすい保育施設の仕組みの構築、短時間正規雇用制度導入および専門医制度への対応を要望する。一方、子どもを持たない医師にしわ寄せがこない環境整備も極めて重要である。

単身者、子どもをもつ医師いずれの場合であっても、フルタイム勤務をする医師は正規雇用されるべきである。

3. ワーク・ライフ・バランス実現

ワーク・ライフ・バランス実現には医師の過重勤務の緩和が重要である。複数主治医制の導入、正規雇用条件の緩和などの推進を要望する。

さらに、女性が中心となって家事を行なうという慣習から脱却し、「出産・育児・介護に対して男女が共に取り組む」こと、男女が共に働いて経済を支え人口の再生産が必要な時代を迎えたこと、家事代行補完は雇用も生み出すこと、などの意識改革を社会全体に広めることが重要である。